

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

AV 業界から見える社会のしくみ

「女性に向けて『AV女優になるということ』を包みかくさず伝える書籍にしたい」という著者の思いの通り、AV（アダルトビデオ）制作の実態とAV女優の現実を知ることができる一冊。新聞記者を経て、2014年にAV女優としてデビューした彼女は、4年間あまりで約750本の作品に出演したという。業界側に配慮せずすむフリーの立場だからこそ書ける内容、そして何より当事者にしか伝えられない現場の雰囲気と冷静な分析。ポップな語り口ながら、ユーザー向けのリップサービスではなく、AVという仕事について解説した実用書である。

AV女優といってもいろいろなカテゴリがあり、内容もギャラもさまざま。そもそも、どうやってその世界に入るのか、どのような契約で、仕事現場はどんな感じ？業界ではあたりまえのことも、詳しく説明されている。いわゆる“ギョーカイ”の情報は、「知らないの？」という上から目線で語られたり、「とるに足らないこと」と切り捨てられたりしやすいが、著者は「すべてのこと」を丁寧に伝えようとする。少しでも多くの情報を得ておくことが自分の身を守ることにつながるという著者の信念が感じられる。

「知らないの？」「わかってるよね？」という圧力は、業界側が主導権が握るためのものである。女子にはどんな選択肢があるのか、どれだけ交渉の余地があるのか。意に沿わない仕事に対して、どうやって闘えばいいのか。業界内部で暗黙のルールになっていることもしっかり確認しておかないと、どんどん断りにくい状況になると著者は言う。そのため、本書ではAV出演承諾書やギャラ明細も開示、作品販売等停止申請をした際の文面まで掲載する徹底ぶり。映像の二次利用料や日本ではまだ認められていないネット配信でのロ



AVについて女子が知っておくべきすべてのこと

澁谷果歩著
サイゾー
定価 1500円+税

イヤリティについても言及され、もはや実用書のレベルを超えた労務管理マニュアルともいえそう。

また、「とるに足らないこと」「些末なこと」とみなされるような業界側のやり方が、巧みに女子を囲い込んでいく過程も見逃せない。飲み会やパーベキューパーティといったイベントで女優のプライベートに入り込み、関係者とのつながりや居場所を作っていく。親を批判して、業界側にとって都合のよい生活形態に誘い込むといった洗脳的な手法は、あからさまな暴力を用いていないだけに巧妙である。契約書の備考欄に「がんばります！」といったコメントを書くように求めて、出演強要をしていないという証明を作り出すこともある。こうした「あれ？」「ちょっとおかしい」という場面について、著者は一つ一つ立ち止まり、何が起きているのかを考えていく。AV女優としての体験記のみならず、AV業界のフィールドワークとしても読むことができる。

2016年に社会問題となったAV出演強要の問題についても、当時、現役だった著者が業界の動きや変化を詳しく記述している。AV女優あるいは関心のある人にとって、具体的に役立つ内容だろう。

そのうえで、本書が「AV女優になりたい女子」だけを対象にしているのではなく、広く「女子」に向けられているのは、ここで書かれていることがAV業界に限った話ではなく、社会で起きていることにつながるからであろう。AV女優への「お姫様扱い」とセクハラ、強要や搾取は、あらゆる業種でも無縁ではない。私生活や日常においても、一方的な性的願望を押しつけても構わない相手として「女子」が扱われることはめずらしくない。AV業界や性産業だから性の健康や権利が守られないのではなく、性を消費する社会のありようが、性産業に従事する人や女性に対するまなざしや態度を形作っているのだ。

(大阪大学大学院准教授 野坂祐子)